資源評価・新規対象種に関する資源調査

（資源評価調査）

寺門弘悦・寺戸稔貴・佐々木正・石原成嗣・井口隆暉・岡本　満・森脇和也

１．目的

改正漁業法に基づき新たに資源評価対象種に加えられた水産資源について、適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言を行うため、科学的評価に必要な統計データや生物学的情報の収集を行う。

２．方法

本県が参画する資源評価に新たに加えられた対象種（以下、新規対象種）のうち、2023（令和5）年度は日本海ブロックの 22 種（アンコウ、イトヨリダイ、キアンコウ、キジハタ、クロザコエビ、クロダイ、コブダイ、シイラ、チカメキントキ、チダイ、トゲザコエビ、ハツメ、ヒメジ、ヒレグロ、マゴチ、マハタ、マフグ、エゾボラモドキ、エッチュウバイ、クロアワビ、サザエおよびメガイアワビ）および西海ブロックの2種（サワラおよびマルアジ）について、島根県漁獲管理情報処理システムから出力した漁獲統計資料または産地市場の販売データから漁業種類別漁獲量の集計を行った。また、類似種との混在が懸念される魚種の水揚げ実態について、産地市場で実態調査を実施した。

３．結果

(1) 漁獲状況調査

新規対象種の 2022（令和4）年の漁獲量（属人）を図1に示した。キアンコウとアンコウは混在して水揚げされることがあるため「アンコウ類」として集計した。トゲザコエビとクロザコエビは、販売データ上では両種は区別されていないため「ザコエビ」として集計した。

(2) 産地市場での混在実態調査

新規対象種のうち、アンコウ・キアンコウ、イトヨリダイ、クロダイ、チカメキントキ、ハツメ、ヒメジ、マゴチ、エゾボラモドキ、エッチュウバイおよびメガイアワビは類似種が混在して水揚げされている可能性がある。2023 年度もチカメキントキについて、県西部の浜田市場における沖合底びき網漁業および一本釣漁業の漁獲物を対象として類似種との混在実態を調べた。その結果、チカメキントキは 2022 年度と同様に類似種のキントキダイなどと区別して水揚げされていた。今後はチカメキントキが多く水揚げされる他地域の産地市場での混在実態を調べる必要がある。

４．成果

調査結果は（国研）水産研究・教育機構 水産資源研究所に送付した。他の参加機関の調査結果と合わせて、日本海ブロックの新規対象種のうちマハタ、ヤナギムシガレイ、エゾボラモドキ、クロアワビおよびメガイアワビは「令和5（2023）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）」として、その他の17種は「令和5（2023）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）」として、魚種別に取りまとめられて公表された※。また、西海ブロックのサワラ日本海・東シナ海系群およびマルアジ日本海西・東シナ海系群の資源評価に調査結果が利用された。

※公表 Web サイト（2024.6.17 時点）：我が国周辺の水産資源の評価 https://abchan.fra.go.jp/hyouka/this-year/

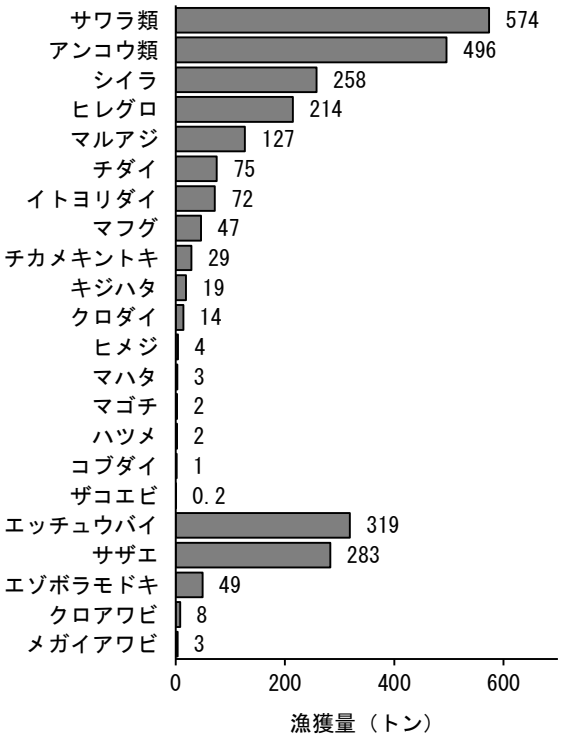

図1　資源評価・新規対象種の 2022 年の漁獲量（属人）